



旅の途中



(財) 地方公務員等ライフプラン協会 谷口 有史

月 日は百代の過客にして行き交う年もまた旅人なり…と松尾芭蕉が詠んだように人生そのものは旅であります。私は北海道の岩見沢市に生まれ、高校時代を函館で過ごし、大学時代は大阪に学びました。会社に入って、広島、東京、京都、大阪と日本各地を転勤してきました。

大学時代の盆休みと正月休みには、北海道の実家に帰省するのに青春18切符を使って（5日間普通電車乗り放題）大阪→東京→青森→函館→札幌というルートや、大阪→松本→佐渡島→秋田→青森→函館→札幌というルートの列車旅を行いました。途中は野宿か駅舎での睡眠です。思えば太平洋周りも日本海周りも車窓からの風景に変化があって楽しかったように記憶しています。日本海周りでは松本から大糸線を北上し新潟から船で佐渡島に渡りました。両津港付近のバス停小屋で一夜を明かし、トンネル道を10km以上歩いて島を横断して相川という所に辿りつきました。残暑の台風のせいか濡れ鼠でした。足も疲れ、風邪を引いたのか体がだるく、私はもうヘトヘト状態でしたが、全盛時には世界最大規模の金を産出した佐渡の金鉱山に行きました。次の日は晴れたので南の方の港で桶に乗って佐渡おけさを見学しました。岸壁の上の食堂でサザエなどの海産物を食べ舌鼓を打ちました。

広島で勤務していた時代には休日に瀬戸内海の大久野島に行きました。ここは戦時中は日本軍によって地図から消された島で、毒ガスを秘密裡に製造していました。島にはその製造工場の跡が残っていて、ガスを貯蔵するタンク跡や発電所、海上警備の砲台が残っていました。いわゆる戦争遺跡ですね。気候が温暖で風光明媚なことから今は国民休暇村になっています。

他に会社員時代の旅で印象に残っているのは、宮島の巖島神社や、出雲大社、鳥取砂丘、隠岐の島、因島、淡路島、松本城、善光寺です。今年のゴールデンウィークは三島由紀夫の『潮騒』の舞台である神島に上陸しました。灯台から眺める真珠筏の浮いた英虞湾は絶景でした。昨年は作家松本清張の生誕100年記念ということで映画やテレビドラマなどさまざまな企画がありました。私も刺激されて松本清張の作品を読んでみましたが、面白い小説がありました。それは『Dの複合』という題名です。主人公である作家の、浦島伝説と羽衣伝説を追う取材旅行に殺人事件が絡み合うのですが、西は山陰



地方の木津温泉から東は千葉の館山までの長距離の旅がベースになっている興味深い作品です。読まれたことがない方は一度読んでみてください。私はまた旅心をくすぐられ次の旅を計画中です。

『平成21年度地方公務員等のくらしと生きがいなどに関する調査』で、在職者を対象とした退職後の自由な時間の過ごし方についての質問では6割の方が「国内宿泊旅行」と回答されました。私も人生の旅の途中ですがこれからも旅を続けていきたいと思っています。旅の思い出に加えられるべき未踏の土地を胸に思い描きながら…。